

# 日本経営倫理学会会報

JAPAN SOCIETY FOR BUSINESS ETHICS STUDY

## 創立20周年に向けて

常任理事 松本 邦明(経営倫理実践研究センター)

日本経営倫理学会は1993年4月1日に創立され、本年で20周年を迎えます。そこで今後1年間にわたって関連した各種の行事の開催を予定しております。その関連行事について既に決定していることを報告します。

### 1. 第21回研究発表大会発表者公募について

本年6月に開催される研究発表大会に向けて研究発表者の公募がはじまっています。統一論題は「経営倫理とダイバーシティ・マネジメント」です。研究発表者の選考は、本年度と同様、公募と部会推薦の二本立てとし、合計25名程度の発表を予定していますので、発表を希望される方は応募要領に従ってご応募下さい。応募資格は本学会の会員であること。応募の締め切りは2013年3月15日(金曜日)です。(15日の消印有効)

### 2. 研究発表大会及び総会

#### (1) 研究発表大会発表者の募集

第21回研究発表大会を、2013年6月15日(土)・16日(日)の両日、白鷗大学東キャンパス(栃木県小山市)にて開催いたします。大会の初日である15日(土)の13~14時には、2013年度通常総会を併せて開催いたします。

大会前後のプログラム概要は以下の通りです。

・大会前日 6月14日(金) 工場見学と夕食会

12:30: JR小山駅東口に集合し、バスで日産自動車栃木工場へ。

ここは日産が世界に誇る高級車、GTR、シーマ、フーガ、スカイライン、スポーツカーの生産工場です。見学終了後ブルーベリーガーデン、ハーブガーデンを見学し、ワインとフランス料理の夕食を楽しみます。

夕食後、大学バスで小山グランドホテル(泊)へ

(費用)工場見学バス代、6月の森での夕食代、14日の小山グランドホテルでの宿泊代も含めて、¥10,000です。(日本経営倫理学会に納入・領収書発行)

・第1日目 6月15日(土)

10:10~正午頃: 開会式および研究発表。午前中の研究発表は4つの会場に分かれて行います。

13:00~14:00: 2013年度通常総会。本年は20周年にあたり、記念の行事を予定しております。

14:10: 統一テーマ「経営倫理とダイバーシティ・マネジメント」セッション

統一テーマ関連の研究発表とスピーチ、パネル討議を予定しています。パネラーとして、シカゴ大学の山口一男教授他にご登壇いただく予定です。

18:00: 懇親会(白鷗大学東キャンパス11階)

白鷗大学の森山眞弓学長よりウエルカム・スピーチが予定しています。

・第2日目 6月16日(日) 研究発表

9:30~正午頃: 研究発表

12:20: 閉会式、昼食後、解散の予定です。

### 3. 経営倫理シンポジウム

(1) アメリカ UC Berkeley 校ハース経営大学院(Business School)教授、デービッド・ヴォーグル(David J. Vogel)博士を招聘し、グローバルな視点から経営倫理やCSRについて考える記念シンポジウムを開催する予定です。

(2) シンポジウム概要

① 開催日: 2013年11月16日(土) 午後13:00-17:00(予定)

② 開催場所: 慶應義塾大学三田キャンパス

③ テーマ: The Challenge of Business Ethics and CSR

④ 基調講演者: David J. Vogel 氏

ヴォーグル教授は優れた経営倫理研究者の一人であり、“Market for Virtue”邦訳『企業の社会的責任徹底究: 利益の追求と美德のバランス—事例による検証』(オーム社出版、2007年)の著者として知られています。

## 創立 20 周年記念出版について

当学会のCSR研究部会とグローバル企業の経営倫理研究会が創立20周年記念として、日頃の研究成果をまとめた著書を、それぞれ白桃書房より刊行予定です。是非お買い求めの上、ご一読ください。

### ◇CSR研究部会

- 『人にやさしい会社—安全・安心、絆の経営』 白桃書房 2013年3月 予価2,000円
- |                           |                          |
|---------------------------|--------------------------|
| 序章 世界の持続可能な発展を支える人権・労働    | 第5章 働きたい人々を支援し、ともに働く会社   |
| 第1章 地域社会と人を守る「安全・安心、絆の経営」 | 第6章 多様な価値をまとめるマネジメント     |
| 第2章 従業員満足を高める楽しい働きやすい職場環境 | 第7章 風通しの良い企業風土の醸成        |
| 第3章 労使の絆とメンタルヘルス          | 終章 安全・安心のリーダーシップ・イノベーション |
| 第4章 未来をひらくワーク・ライフ・バランス    |                          |

### ◇グローバル企業の経営倫理研究会

- 『グローバル企業の経営倫理とCSR』 編著：小林俊治・高橋浩夫 白桃書房 近刊 価格未定
- |                           |                                   |
|---------------------------|-----------------------------------|
| 第1章 企業のグローバル化と企業倫理        | —グローバル・コンパクト, GRI ガイドライン ISO26000 |
| 第2章 多国籍企業のビジネス・エシックス      | 第9章 「グローバル企業の経営倫理」の現状             |
| —一人権問題と鉱物紛争を巡って           | —日本の主要なグローバル企業:                   |
| 第3章 国際多元化社会における企業倫理       | BERC 会員企業の調査から                    |
| 第4章 BOP ビジネスの視点からみた,      | 第10章 欧米グローバル企業のCSRの取り組み           |
| グローバルCSRとCSV              | —欧州150社, 北米120社の調査より              |
| 第5章 グローバル企業における           | 第11章 日本企業のグローバル化に向けて              |
| 「価値共有型」の経営倫理              | —管理者の倫理観に関する実態調査をもとに              |
| —ジョンソン・エンド・ジョンソンの         | 第12章 イギリス企業                       |
| 「我が信条(Our Credo)」を通じての検討  | 第13章 アメリカ企業                       |
| 第6章 グローバル企業の進出地域との共生      | 第14章 韓国におけるグローバル企業の経営倫理とCSR       |
| 第7章 グローバル企業の不祥事とその対応      | 第15章 台湾企業のCSRの実際展開                |
| 第8章 グローバル企業の企業行動指針の変遷とCSR |                                   |

以上

## Professor Werhane, Dr. Wolfe 来日と日米研究交流

### テーマ:女性の経営層における活躍はグローバルな課題 常任理事/国際委員 西藤 輝(中央大学)

1979年に創設された米国経営倫理学会、Society for Business Ethics (SBE)の創設者の一人で1980~1983年、同学会の会長を務められた Professor Patricia H. Werhane (DePaul University 企業倫理教授、Darden Business School, University of Virginia 名誉教授)と King's College, University of London で博士学位を取得し、Senior Wicklander Fellow, Institute of Business and Professional Ethics, DePaul University で、傍ら SBE の Newsletter 編集責任者として活躍している Dr. Regina Wentzel Wolfe のお二人が新年明けの1月7日に来日した。この度の来日目的はお二人が取り組んでいる研究テーマの一つである "Women in Business"、企業の経営層における女性の活躍についての日本企業の実態調査であった。

お二人の来日については昨年8月ボストンで開催された2012年度SBE年次大会に参加した折、一緒に参加していた雪印メグミルク(株)・社外取締役、企業倫理委員会委員長の日和佐信子氏、同社CSR部、利根哲也課長他数名の関係者と夕食をご一緒した際、日本での実態調査研究についての予定を伺っていた。そうした背景もあって、この度の研究交流は日和佐取締役、利根課長をはじめ雪印メグミルク(株)の皆様の多大なご協力を得て実施された。

お二人は来日早々の1月8日から日本における行政、企業等の意思決定層で活躍されておられる女性の活躍状況につき、日和佐取締役のご紹介のもとにインタビューを行われた。インタビューをお引き受け頂いた方は雪印メグミルク(株)の日和佐取締役、消費者庁長官 阿南 久氏、(株)日清製粉グループ本社常勤顧問(元同社常務執行役員)吉田美恵子氏、日本たばこ産業(株)執行役員・飲料事業部長 永田亮子氏、そして1999年当時の社長、安居祥策氏(現:日本政策金融公庫総裁)の思いからダイバーシティ推進に取り組んだ帝人(株)CSR企画室長 黒瀬友佳子氏である。

ご案内の通り、当学会の2013年度年次大会統一テーマは「経営倫理とダイバーシティ・マネジメント」であり、日米研究交流の意義は大変大きなものがあつた。



Prof. Werhane (中央大学にて)

こうした企業事例の実態調査の傍ら、1月8日は慶應義塾大学で、翌1月9日には中央大学ビジネススクールで”Globalization and its Challenges for Business Ethics and Commerce in the 21<sup>st</sup> Century”, 「経営のグローバル化とその課題：21世紀の企業倫理と事業活動に向けて」をテーマに Professor Werhane による特別講演が行われた。中央大学ビジネススクールでの特別講演は日本経営倫理学会、経営倫理実践研究センターが後援し、多数の学会会員も参加し、講演後の質疑応答も大変活発で有意義であった。

グローバル時代を迎え、国際交流の意義はすこぶる大きなものがあり、国際委員会として今後も会員の皆様のご協力を得ながら、更なる努力を続けたいと思う。

以上

## 12 月度研究交流例会開催報告

昨年12月15日開催の研究交流例会は前後半ともに活発な質疑応答があり会場は熱気に包まれた。以下は前半の報告概要。

### 「経営倫理学におけるカント哲学の現代的意義—社会哲学の視点から」

新川 信洋 (博士 (学術、一橋大学))

自律的に道徳を課す「動機」を重視し、「定言命法」を中心として展開するカントの倫理学説は、義務論としての厳格さゆえに、ときに「理論としては正しいが実際には役に立たない」とされる。この点にはカント自身が一定の反論を試みており、今日でもカント倫理学を肯定的に再評価する動きが見られるが、ここでは社会哲学的な側面に関心を向けることで、別角度からその積極的意義を取り出したい。

カントは、『永遠平和のために』において、利己的傾向の推進は平和を到来させる条件の一つであると述べ、とくに「通商精神」は暴力や戦争にたいして諸民族の安全を確保すると説く。この「通商精神」には二つの側面がある。「商業」という観点で儲けを追求するような利己的で競争的な性質を有する点では「非社会的な」精神であり、これにより競争が理論化される。他方、商いの点で互いに結び結ぼうとする「通商」という意味では平和を尊ぶものであり、その点を取り出せば社会的な精神である。たしかに、そうした通商関係においては、当時でいえば植民地主義のように、利己的な利害追求がときに暴走することがありえる。しかしカントは「世界市民法は普遍的な友好をうながす諸条件に制限されるべきである」と説くことで、それを抑止するための「自制」の論理を用意・提出している。

「啓蒙主義」の時代精神である「自ら主体的に考え、判断すること」を重視するカントは、おそらくはそうした「世界市民」の前提条件として、「公開性」の重要性を説いている。カント自身はこの概念を十分には展開できなかったが、ここに見られる公平・公正・公表性といった正義論的視点を重視することで、義務論に偏って解釈される傾向にある非帰結主義的な倫理学説の立場が整備・補強される。このことは経営倫理学の発展においても重要な視点であると考えられ、ここにカントの思想の現代的意義の一端を確認することができる。

以上

## 第132回理事会(2012年12月15日)議事録<要旨>

### 1. 新入退会者承認の件

[新入会員] 正会員：3名 学生会員：1名 法人会員：1名

[退会者] 正会員：3名 会員数：470名

### 2. 日韓経営倫理シンポジウムの件

昨年11月8日～11日にソウルの国民大学で開催された「日韓経営倫理シンポジウム」についての報告が高橋会長及び梅津副会長から行なわれた。日本からの21名を含め約100名が参加した。シンポジウムの最中に停電というハプニングもあったが予定のプログラム通りに実施することが出来、日韓経営倫理関係者間の友好が深まる有意義なものであった。

### 3. 第5回経営倫理シンポジウム(11月21日)の件

昨年11月21日に国際文化会館で開催された JABES/BERC共催の「第5回経営倫理シンポジウム」は約120名の参加者があり盛会であったとの報告が事務局よりなされた。基調講演は明治大学の出見世教授、パネルディスカッションのコーディネーターは水尾常任理事にお願いしたが、「企業不祥事と経営倫理～今求められるコンプライアンスとコーポレートガバナンス」というテーマも時宜を得ており好評であったと報告された。

#### 4. 第6回経営倫理シンポジウムの件

本年11月に慶應義塾大学(三田)で開催予定の第6回経営倫理シンポジウムに招聘するUC BerkeleyのDavid J. Vogel教授は11月15日~20日の間訪日することになった。シンポジウムは11月16日(土)午後開催。同教授は11月19日一橋大学でも講義を行なう予定。

#### 5. 学会誌第20号掲載論文審査の結果報告の件

中野学会誌・論文審査委員長より「大会発表者34名の内31名から論文が提出されたが、審査の結果23篇が掲載可(うち1篇は研究ノート)、6篇が不可、2篇は掲載辞退となった」と発表された。

#### 6. 公募論文の取り扱いについて

今回の論文審査をめぐって「従来の審査に比べて判定が厳しすぎるのではないか」「大会発表者が提出した論文は原則として学会誌に掲載させるべきではないか」等の意見が出されたことに鑑み、中野委員長より現在の「研究発表大会および学会誌の企画運営と論文審査に関する規程」の改訂案が提示された。主な点は①必要に応じてコール・フォー・ペーパー(CFP)方式を導入できるようにすること②新たに「論説」のジャンルを設け「学術論文とは性格を異にするが、政策的もしくは実践的に意義のある主張や提言等がなされているもの」を学会誌に掲載できるようにすること、③「学術的論文としては未完成の研究覚書、調査研究継続中の考察、資料的価値の高いもの等」を「研究ノート」として掲載できるようにする

こと、である。引続き論文審査委員会で検討する。

今年度刊行の学会誌20号は従来の掲載論文の統一論題・自由論題の区別を廃止し、論文と研究ノートの2本立てで編集することになった。

#### 7. 創立20周年の行事に関連して

(1) 表彰規程の作成(学会賞の創設)について

学会賞は学会の理念にも関係し検討項目が多く慎重な審議が必要であるため、20周年に間に合わない恐れはあるが特別委員会を設けて時間をかけて検討することになった。

(2) 感謝状の贈呈について

永年にわたり学会の縁の下の力持ち的な協力を行った会員に対して感謝状ならびに記念品を贈呈する件については特に異議なく了承された。

#### 8. 上期の監査報告の件

監事より平成24年上期の監査結果が報告された。事業は計画通りに実施されており、決算報告資料ならびに現預金管理は適切に処理されているとの報告がなされた。

#### 9. その他

米国の著名な経営倫理・CSR研究者であるバージニア大名誉教授 Prof. Patricia Werhaneの来日の機会をとらえ本年1月19日に中央大学が開催する特別講演会につきJABES/BERCが後援することになった。テーマは「Globalization and CSR」。

以上  
(文責：瀬名)

## 平成24年度年会費納入のお願い

本年度も残りわずかとなりましたが、未だ、年会費未納の会員がいらっしゃいます。年会費は学会の活動を支える重要な財源です。お支払いがお済みでない会員各位は早急の納入をお願いいたします。

◇年会費：正会員・1万円 学生・3千円 法人(上場)・5万円 法人(非上場)・3万円

◇支払方法：以下へお振込ください(振込手数料は各自のご負担でお願いいたします)。

#### みずほ銀行麹町支店(普通預金)

口座番号：1159049 / 口座名：ニホンケイエイリンリガツカイ

◇年会費を2年以上滞納されますと「日本経営倫理学会会則」第8条に則って退会対象となりますのでご注意ください。

◇年会費支払い有無の確認は事務局(以下)まで、お問合わせください。

◇年会費自動振替のお手続きがお済みでない各位は切換をお願いいたします。

#### 【学会連絡先：東京事務局】

住所：〒102-0083

東京都千代田区麹町4-5-4桜井ビル3階

電話/FAX：03-3221-1477 / 03-3221-1478

E-mail：info@jabes1993.org

担当：古山常任理事(広報)

松本常任理事(総務)

発行：日本経営倫理学会

#### 編集後記

昨年末に発足した安部政権の提唱するアベノミクス。それに対する先行期待で円安・株高が急激に進んでいる。日本勢のこれ以上の地盤沈下は許されないと日本企業は必死にグローバル化に取り組んでいる。グローバルに通用する経営理念および企業ガバナンスの確立とCSRの発揮がそのカギ。当学会の取り組む分野は広くそして深い。(編集担当/瀬名)